2014 年 4 月 30 日発行

緑　育　会　通　信　第15号

～新年度を迎えて～

東京家政大学・東京家政大学短期大学部
学長　川合貞子

創立１３３年を迎える本年、東京家政大学狭山キャンパスにこの４月、看護学部　看護学科と子ども学部　子ども支援学科が開設されました。２００９年に板橋キャンパスにワンキャンパス化されて以来５年、緑あふれる狭山キャンパスに再び学生の明るい声が日々響きわたります。

ご存じのように本学は１８８１年に校祖　渡邉辰五郎によって、ただ単に裁縫ができるだけではなく、裁縫を教授できる智徳の優れた女性教員を育てようと設立された和洋裁縫伝習所に始まり、その女性が生涯にわたって主体的に活躍する「自主自律」が建学の精神となり、今日の東京家政大学の教育の礎となっております。開設された看護学部、子ども学部共にこの建学の精神を受け継ぐことのできる分野です。看護学部　看護学科において看護教育を受けた後に、看護師国家試験に合格し看護師となり、病院などの医療分野、地域・在宅分野、その他保健センターなど多分野での活躍が期待されます（本学では保健師、助産師の資格取得も可）。近年、医療の高度化や看護職の地位の向上などを背景に、４年制大学での養成が増加しており、本学看護学部もその任を負うことになります。また子ども学部　子ども支援学科は、少子化社会、男女共同参画化社会の進む中で、子育ての社会化を担う分野としての保育士、幼児教育を担う幼稚園教諭、さらに健全な発達や健康に困難を感じる子どもの支援を担う特別支援学校教諭など、その専門性を身につけた保育者や教員養成への社会からの要請が増大しており、期待が寄せられています。このように両学部とも大学での学びが、卒業後生涯にわたって人生を支えることが可能であり、女性が「自主自律」の道を歩むことを実現できる学部・学科として東京家政大学の伝統の上に設置されたといえます。

また、本学は１９４９年に東京家政大学として認可設置されましたが、その初期学長である青木誠四郎の学生への講話から生まれた「愛情・勤勉・聡明」を生活信条として、日々それを実践できる女性を目標としています。看護学部　看護学科も子ども学部　子ども支援学科もともに人に寄り添い、直接人間を対象とした学問体系を持った実践の科学であり、生活信条「愛情・勤勉・聡明」は当にその資質の基本となります。また、狭山キャンパスには保育所「かせい森のおうち」、クリニック「かせい森のクリニック」（9 月開設予定）が開設され、両学部の学生の学びの充実とともに地域社会との連携を大切にすすめる環境が整いました。

東京家政大学は板橋キャンパスに家政学部、人文学部そして狭山キャンパスに看護学部、子ども学部の４学部と大学院人間生活総合研究科、そして短期大学部を擁しています。既設学部等はいうまでもなく、建学の精神である「自主自律」の道を歩むことができ、生活信条としての「愛情・勤勉・聡明」を実践できる人を教育理念として人材の育成に努めており、卒業後社会で活躍する多くの先輩諸姉が高い評価を受けておりますのは家政大学の大きな誇りであり、その実績が今日の東京家政大学を創ってまいりました。私立大学の個性的で魅力ある存在理由は、この建学の精神と教育理念です。板橋キャンパスと狭山キャンパスは地理的には少々離れますが、学生・教職員ともに東京家政大学の一員としてのアイデンティティーを持ち、協働する中で社会への創造的貢献ができるよう、更なる努力をしなければならないと気持ちを新たにしております。狭山キャンパスにはセミナーハウス「かせいの森」も新築されました。是非一度お訪ねください。

【目　　次】

～新年度を迎えて～　東京家政大学・東京家政大学短期大学部学長　川合貞子教授 ---------- 1
平成 26 年度免許状更新講習のご案内　免許状更新講習実施委員会　青木幸子教授 ---------- 2
アドバイスコーナー　児童教育学科准教授　半澤嘉博 ---------- 3
教材情報　造形表現学科助教　田中千賀子 ---------- 4
教育時流　児童教育学科（プロジェクト推進協力員）大越和孝教授 ---------- 5
お知らせ「第 22 回（平成 26 年度）高校教員対象講習会」 ---------- 5
新設子ども学部について　子ども学部長　岩田力教授 ---------- 6

平成 26 年度免許状更新講習のご案内

免許状更新講習実施委員会
免許状更新講習内容・実施検討グループ代表　青木幸子教授

平成 25 年度の免許状更新講習に多くの卒業生の皆様がご参加くださいましてありがとうございました。例年どおり講習終了後、実施委員会を開き、反省と次年度に向けての改善策を検討しました。また、狭山校舎に新設学部が開設されることになりましたので、それらの動向も踏まえながら平成 26 年度の講習計画を立てました。本紙でその概要を把握されますとともに、詳細はホームページ上にてご確認くださいますようお願いいたします。

１．講習日程

講習期間は、8 月 18 日（月）、19 日（火）、20 日（水）、21 日（木）、22 日（金）の 5 日間です。

２．講習内容および会場

講習は、「教育の最新事情」（必修・12 時間）と「教科指導、生徒指導その他の教育内容の充実に関する事項」（選択・18 時間）の 2 領域とも開講します。必修領域は、板橋・狭山両校舎での開講となります。選択領域は 10 講座、板橋校舎での開講となります。

３．時間数

選択領域の講座には、6 時間と 18 時間があります。

４．定員

各講座とも変更はありません。

５．受講申し込み方法

①申し込み方法

Web 登録および郵送での受付となります。

登録フォームに必要事項を漏れなくご記入の上、送信してください。登録されたアドレスに自動で受け付けたことをお知らせするメールが返送されます。

②受付期間および追加募集

受付期間は、一週間です。期間内であれば、すべて受け付けます。定員を超えた場合には抽選を行います。また、定員に満たなかった場合には、追加募集をします。追加募集の期間も一週間です。定員が 5 名に満たない講座は開講しません。

③受講者へのお願い

受講者の中には、複数の機関に受講申し込みをされており、講習間際になって不参加の意思表示をされる方がおります。辞退する場合には速やかに手続きをしてください。

夏の暑い期間ですが、私たち教職員一同、快適な空間で魅力的な講座を提供できるよう今後とも努力していきます。どうぞ今年の夏も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第６回（平成２６年度）免許状更新講習の開催について

平成 26 年 8 月 18 日（月）、19 日（火）、20 日（水）、21 日（木）、22 日（金）に、板橋・狭山キャンパスにて、以下のとおり免許状更新講習を開催予定です。【文部科学省認定申請中】

内容・申込等の詳細については、文部科学省から認定を受けた後、3 月下旬にホームページで広報いたします。

領域	免許状更新講習の名称	開催日 時間数	会場：定員	受講対象者
必修	教育の最新事情	8/18, 19 計 12 時間	板橋：100 名	全教諭
	教育の最新事情	8/18, 19 計 12 時間	狭山： 50 名	全教諭
選択	はじめてのマルチメディア教材作成	8/20 計 6 時間	板橋： 10 名	中・高 家庭科・理科教諭
	小学校理科の新単元	8/20 計 6 時間	板橋： 20 名	小学校教諭
	中学校高等学校理科の生命分野新単元	8/21 計 6 時間	板橋： 20 名	中・高 理科教諭
	情報機器の高度利用	8/22 計 6 時間	板橋： 10 名	中・高 家庭科・理科教諭
	化学ってどんな科学	8/22 計 6 時間	板橋： 20 名	中・高 理科教諭
	家庭科の授業づくりと教材化の視点	8/20, 21, 22 計 18 時間	板橋： 60 名	小・中・高・特別支援学校 家庭科教諭
	小学校教諭実践講座	8/20, 21, 22 計 18 時間	板橋： 35 名	小学校教諭
	保育のリフレッシュとスキル・アップ講座	8/20, 21, 22 計 18 時間	板橋： 40 名	幼稚園教諭
	多様な美術表現の実践	8/20, 21, 22 計 18 時間	板橋： 15 名	小・中・高・特別支援学校 美術科教諭
	最新の英語科教育法の理論と実践	8/20, 21, 22 計 18 時間	板橋： 30 名	中・高 英語科教諭

アドバイスコーナー

特別支援教育に関する教師の資質・能力

児童教育学科准教授　半澤　嘉博

はじめに

教員の資質･能力の向上への期待が高まっています。中央教育審議会の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（2012 年 8 月 28 日）では、これからの学校が、社会の急激な変化に伴い、基礎的･基本的な知識･技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、さらに、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要があると強調しています。そして、このような新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立を求めています。

また、学校の中でのいじめ・暴力行為・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ＩＣＴの活用など、諸課題への適切な対応についても、これからの教師の重要な資質・能力であるとしています。

特別支援教育に関する教師の資質・能力の重要性

上記の答申の中で、教員の特別支援教育の専門性向上について「通常の学級の教員についても、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められている。このため、特別支援教育に関する研修の受講等により基礎的な知識･技能の修得を図る。」と述べられています。

特に、義務教育段階での小・中学校では、通常の学級にＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の発達障害と思われる児童生徒が 6.5%在籍していることや、障害者の権利条約の批准に伴うインクルーシブ教育システムの構築や合理的配慮の実施などへの対応は喫緊の課題となっています。

特別支援教育に関する専門性とは？

通常の学級の担任に求められる基礎的な知識・技能とは、発達障害やその他の障害についての基礎的な知識理解、また、障害のある子どもの受け入れに関しての学級経営上の工夫や配慮などが重要です。しかし、最近、障害のあるなしにかかわらず、全ての児童生徒に分かりやすい授業を提供していくことの重要性も指摘されています。これが、「授業のユニバーサルデザイン」です。

授業のユニバーサルデザイン

授業のユニバーサルデザインは、施設設備やアクセシビリティの側面からだけの取り組みではありません。具体的には、特に、教材等の視覚化・共有化・焦点化や、時間の構造化、刺激量の調整等を行うことで、学習への集中力や理解力を高めていきます。また、単に授業の工夫だけではなく、学校全体での学習の系統性や、環境整備、指導体制の工夫なども大切です。どの子どもにとっても分かる・できる楽しい授業を提供していく教師の指導力が問われるところです。

まとめ

特別支援教育の視点からの授業のユニバーサルデザインの取り組みは、今後、日本語の習得が難しい帰国子女や外国籍の子どもたちへの支援、また、不登校の子どもたちへの弾力的な支援などにも広がっていくものです。

どの校種においても、教師は個別の教育ニーズに応じた支援ができる指導力と、どの子どもにも分かりやすい授業を展開できる指導力の両方を鍛えていくことが急がれます。

教材情報

アートを介したプロジェクト学習－板橋アートキャンプ 2013－

造形表現学科助教　田中千賀子

2013 年 8 月 9、10 日の 2 日間、「板橋アートキャンプ 2013」を実施しました。アートキャンプとは、東京家政大学家政学部造形表現学科の時間外授業として、主に 3 年生が様々なアートプログラムを企画し、それを 1～4 年生が体験するプロジェクト学習です。

現在の大学教育において社会人として必要な基礎力、とくに主体性やコミュニケーション力の向上が課題とされておりますが、造形表現の分野も例外ではありません。従来も「総合表現」や「美術研究」の科目を設け、学外での主体的な活動を促進してきましたが、さらに多くの学生にその機会を与えようと 2012 年度より開始したのが本企画です。主な目的は①自主性、企画力、コミュニケーション力の育成、②社会におけるアートの役割の理解、③自然との対話の 3 点を掲げ、授業で学んだ専門性を社会に対応させるための柔軟な姿勢や態度の養成を目指しました。教員は指導する立場ではなく、学生の企画のサポートするファシリテータ役に徹します。

企画運営を希望する学生は4月の段階で44名でした。前年度の活動を参考にしながら、内容を決め、「鍛冶」、「ファイバー」、「楽焼」、「映像」、「ライブペイント」、「しろくま工削所」、「もてなしの空間つくり（カフェ）」、「ピザ窯つくり」、「音楽隊」、「板橋キャンパスエコツアー」というプログラムが立ち上がりました。必要なメンバーを学生が集めていき、8 月のスタッフ数は、学科・学年を越えて 150 名に達しました。

	スタッフ	当日ボランティア
造形表現学科1年生	1	14
造形表現学科2年生	19	3
造形表現学科3年生	70	2
造形表現学科4年生	25	0
児童教育学科2年生	1	0
児童教育学科3年生	5	0
環境教育学科4年生	5	0
計	150	19

学生が試行錯誤を重ね、企画を進め、学校や教員とやり取りをして行くうちに、やれること、やるべきことも常に変化していきます。スタッフの食事も当初コンビニなどで全て発注する予定でしたが、緑窓会のご厚意で緑窓会館 2 階の研修室を使用させていただけることになり、夕飯のみ炊き出しをすることに決定しました。そのためのサポートとして協力して下さったのが、児童教育学科の木村博人先生と学生スタッフ 6 名です。学年や学科を越えたコミュニケーションが作業のなかで自然になされていました。こうしたプロジェクトの経緯については学生スタッフが作成した報告書をご参照ください（注１）。

また、4 月のスタッフ募集時と 8 月のアートキャンプ終了後に、学生スタッフに経済産業省の推進する「社会人基礎力」（注２）を指標とした自己評価アンケートを実施しました。4 月の段階では、物事に進んで取り組む「主体性」、自分の意見を伝える「発信力」に自信がない学生が多く、積極性が高くない学生が参加に踏み切っているといえます。この要因として学内で実施していることの安心感や、アートに関わる活動であれば誰でも参加を認めるようなアートプロジェクトの懐の広さが考えられます。さらに 4 月と 8 月の両方に回答したもの 44 名の値の変化を考察したところ、個人レベルでは「主体性」や「発信力」の評価を上げているものも多くみられます（注３）。本プロジェクトの意義は、社会性に関わる能力の向上に加え、なかなか外に踏み出せないような学生に対して、学校と社会の中間にあり、気負わず参加することのできる空間を提供できる点にあることを確認できました。

（注１）板橋アートキャンプ 2013 報告書編集スタッフ『板橋アートキャンプ 2013 報告書』東京家政大学造形表現学科、2014 年 1 月。（注２）　『「社会人基礎力」育成のススメ―社会人気力育成プログラムの普及を目指して―』経済産業省、2007 年 5 月。（注３）田中千賀子「大学におけるアートプロジェクト」『大学造形美術教育研究』第 12 号、全国大学造形美術教育教員養成協議会、2014 年 3 月刊行予定。

教　育　時　流

児童教育学科（プロジェクト推進協力員）
大越和孝教授

「全国学力調査」の結果の公表へ

２６年度の「全国学力・学習状況調査に関する実施要項」が文科省から公表された（２５年１１月２９日）。

調査問題の方向やレベルに大きな変更はないであろうが、学校別の結果が公表されるようになったのは、予想されていたが大転換である。このことにより、現場の教育に混乱が起きないか危惧される。

文科省もこのような事態にならないために、配慮事項を示している。「調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにする」（一部抜粋）などである。だが、やはり危惧は拭い去れない。学校名を明らかにした正答率は、学校の教育評価のための最も分かりやすい数字だからである。

教育は、本来、教師の願いから生じる「育てたい子ども像」が大事である。初めに、学力調査ありきの教育にならないことを望む。

英語教育の改革

「英語教育改革実施計画」が公表された（２５年１２月１３日）。

改革のポイントを挙げてみよう。

・小学校５，６年の教科外活動として、週１時間の実施である英語の授業を、正式な教科として週３時間程度に増やす。
・教科外活動としての英語の授業を３，４年まで引き下げ週１，２時間実施する。
・中学校でも、高校で行われるようになった英語による英語の授業を行う。
・高校では、卒業時における英語力を、英検準２級程度から英検２級程度に引き上げる。

３０年度の先行実施に向け、有識者会議で検討していくのだという。おそらく、大きな変更はなく答申されるのであろう。

教師力向上のための調査研究

あまり大きな話題にはなっていないようであるが、「総合的な教師力向上のための調査研究事業委託要項」が発表されている（２６年２月７日）。

安倍内閣の掲げた教育再生実現のために、「実践的指導力を身に付けた教員や、教職員を指揮監督して学校を適切にマネジメントし責務を全うできる管理職の確保・育成に向けた総合的な教師力向上の取り組みを推進する」ためだという。「初任者研修の抜本的な改革」「教師塾の拡充」「教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発」「管理職を養成する仕組みの確立」「教員免許状を持たない専門的な知識・技能のある優れた人材登用の促進」の５項目が挙げられている。

様々な改革が検討され、教員の仕事はますます忙しくなりそうであるが、子どもたちと接する時間をなるべく多くとれるようにする改革こそが大事である。

お知らせ

第 22 回（平成 26 年度）高校教員対象講習会

教員対象講習会は現職の教員を対象に「今、教育現場で活用できる内容」を提供し続けていきたいというコンセプトのもと実施しています。昨年、開催回数は 21 回を数え、8 講座 256 人の参加がありました。

今年度の開催は平成 26 年 8 月 6 日（水）から 9 日（土）の 4 日間を予定しています。6 月には講座内容等詳細をお知らせいたします。

本学卒業生 1 都 16 県の高等学校、過年度参加者に通知し、広く参加をよびかけています。

新設子ども学部について

子ども学部長　岩田力教授

第 13 号に既報の如く、東京家政大学狭山キャンパスに、看護学部と子ども学部が新設された。従来から議論が積み重ねられた看護学部設立構想に沿って、わが国がおかれている少子高齢化という一定の困難を抱える将来を見据えたかたちで、では今何が必要であろうかと、学内の多くの方が深く考察した結果、改めて子どもを対象とした学部を設立する構想が立ち上がり、その実現に向けて手探り状態から次第に明確な目標へと至り、若干の紆余曲折はあったものの平成 25 年 10 月 31 日に設置の許可を文部科学省からいただいた。新設学部学科の名称は、子ども学部子ども支援学科である。

戦後のベビーブームを経て、この 3 世代ほどのあいだに子どもたちを巡る環境は大きな変化を示し、必ずしもそれぞれの子どもにとって生きやすいものではなくなってきている。そのひとつの現れとして、アレルギー疾患の増加、発達が円満ではないと見られる子どもの増加、生活習慣が確立していない子どもの姿などが見られるようになった。少子化であるがためになおさら一人ひとりの子どもたちに目を配り、その持てる可能性を十全に引出す役割を担う保育者を世の中に送り出す、そのような学部学科として子ども学部子ども支援学科が開設された。同時に狭山キャンパスにおいては、認可保育所も発足し、地域の子どもたちを受け入れ保育を実践することで、学生教育にも適切な現場を提供できることになった。

4 月 3 日の入学式には、定員 100 名のところ 114 名の入学者を迎えることができ、2 クラス編制で学生の一人ひとりの顔もよく見られる状況で各教員も自らの専門分野を基礎にしながらも、それを超えるかたちで教育に邁進しようとしている。

子ども支援学科では、幼稚園教諭 1 種及び保育士の資格を全員が取得することを原則とし、希望によって 50 名をめどに特別支援学校教諭の免許も取れるカリキュラム構成となっている。学生の希望は様々であるが、本学科の特色のひとつとして、健康保育科目をもうけた。従来の保育者養成の課程において、当然ながら保健分野の科目は必須である。しかし、それだけでは必ずしも、現場で体験する何らかの疾病を持っている子どもへの保育、あるいは発達障害を持っていると考えられる子どもへの保育について十分に学んだとは言えない。健康保育の科目群を学ぶことで、病児や病後児の保育についても知識を持ち、発達障害の子どもたちに対しても一定のアプローチができる保育者を養成したいと考えている。

以上のような目標を掲げて、新しい学部が、その理想を実現できるよう発足できたことは、ひとえに学園、大学、そして緑窓会ならびに緑育会のご支援があったからこそと思い、教員一同努力して参る所存である。

緑育会事務局からのお知らせ

1. 緑育会のホームページでの閲覧方法について
   ①　東京家政大学のホームページを開き「卒業生の皆さま」をクリックします。
   ②　「緑窓教育会（緑育会)」をクリックしてください。
2. 連 絡 先

〒173-8602　　東京都板橋区加賀 1-18-1
東京家政大学・東京家政大学短期大学部
教員養成教育推進室（緑育会事務局）
電話番号：03-3961-0084
FAX 番号：03-3962-7135
E メール：ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp